



危険

クマ出没中 “寄せ付けない”の徹底を

▶市内のクマ
出没マップは
こちらから



図危機管理防災本部 ☎39・2262

寄せ付けないように

- 収穫予定がない柿や栗、生ごみは早めに撤去する。車庫の扉などは閉める

遭わないために

- 山や畑など出没の恐れがある場所では、鈴やラジオなど音が出るものを携帯する
- クマの活動が活発な早朝や夕方、夜間の行動は避ける。一人での行動や雨の日は遭遇する可能性が高くなる

万一、遭ったら...

- 背を向けずに、ゆっくりと後退する
- 致命傷を避けるため、うつぶせとなり首や顔を守る

9月、栃尾地域で相次いでクマによる人身被害が発生したことを受け、「長岡市クマ被害対策本部」を設置しました。猟友会、警察などと連携して対策を強化しています。今年にはブナの実が不作で、例年以上にクマが食糧を求め人里に出没しています。9月23日に北荷頃地区で20代女性が軽いけが、26日には人面地区で70代男性が顔の骨などを折る重傷を負いました。その他、川口・山古志地域など市内で156件の出没情報が寄せられています（10月22日時



▲市職員が専門家からクマの生態などの説明を受けた「ツキノワグマ人身被害防止対策研修」（10月8日）

慮。クマに襲われないためには、習性を理解し、遭わないための行動が不可欠です。市は今後も、注意喚起のチラシの配布や児童・生徒の登下校時の安全確保、警察と連携したパトロールなどに取り組んでいきます。

専門家 “新世代クマ”が増加中 住民も意識を変え対策を



長岡技術科学大学 准教授

山本 麻希 さん

クマは非常に学習能力が高い生き物。人里や住宅地に餌があることを覚えると、人を怖がらずに出没します。そうした“新世代クマ”が増える中、共存のためにはクマの習性を理解し、人里に寄せ付けない対策が不可欠です。国の補助を活用して電気柵を設置するのも有効な方法の一つ。防災と同じように、個人や地域で危機意識を持ち、しっかりと取り組んでいきましょう。

今年是对策を強化。市民 猟友会 のために力を尽くします

今年には農作物だけでなく、人命が脅かされるクマの被害が県内で増えている異常な事態です。そうした中、猟友会の役割も変化していると感じます。市や警察などとのわなの設置に加え、山間部や生活地域のパトロールを毎日行うなど、人命を守る対策を強化しています。

猟友会として、市民の一人として、みなさんの安全・安心のために力を尽くしていきたいです。



長岡市鳥獣被害対策実施隊長 岡方面隊長

竹内 堅 さん



米百俵。プレイスから始まる新たな未来

大手通坂之上町地区再開発事業

(仮称)

連載

その回 アート

全国初「現代美術」を冠した美術館を開館



こまがた じゅうさち 駒形 十吉

明治34(1901)年～平成11(1999)年

商工会議所会頭として復興祭（長岡まつりの前身）に尽力。収集品は駒形十吉記念美術館などに収蔵。

実業家で先駆的な現代美術収集家

経済界の重鎮であり、長岡から日本全体の芸術を見据え、現代美術の新たな道を開いた人。昭和39年に長岡現代美術館を開館。毎年、「美術館賞展」を開催し、賞金の授与のほか、作品を買い取って展示し、若手作家の発掘、育成にも力を注ぎました。画期的な美術館は国内外の注目を集め、ニューヨーク近代美術館の部長も来館し賞賛しました。中でも、外壁に設置された現代美術家・斎藤義重によるレリーフ「大智浄光」は、美術館の象徴でした。

“アート”が新たな時代を切り開く

「アート」とは、自身の個性を表現すること。芸術家に限らず、個性を表現する人は、すべてが「アーティスト」であると言えます。アートという言葉には、広い意味があるのです。そして、今ではアートとデジタルが融合し、表現を発信しやすい時代になっています。一方で、僕の学生時代は、自分の足と目で情報を見つけていました。実際に自分で情報を探せる場所、表現を受け入れる場所も必要です。



長岡造形大学 学長

馬場 省吾 さん

平成6年、大学開学時に講師として着任。専門は金属工芸。学部長などを経て今年4月に学長に就任。地域と“協創”する大学として、産学官との連携に取り組む。

米百俵プレイスは、幅広い世代が、表現を発信したり、受け入れたりする多様な経験ができる「表現の場」になってほしいですね。さらに、アートは、テクノロジーと結びつくことで、豊かで新しい発想を生み出し、時代を切り開いていきます。4大学1高専と企業が連携して起こる化学反応が、数値や技術だけでは解決できないことを、一気に突破できる起爆剤になることを期待しています。

米プレイスなトコ

往年のアートが放つエネルギーを活動の源に



5階の屋上庭園にはレリーフ「大智浄光」を設置し、かつての長岡現代美術館の記憶を受け継ぐ空間として整備します。アートに触れながら、学生や企業の交流や食のイベント、読書や学習、仕事ができるスペースです。



▲「屋上庭園」のイメージ

かつて先人は未来を見据え、長岡のまちの礎を築きました。そして今も同じ志を持って活躍する人がいます。次代を担う若者たちにその想いを伝え、未来へとつなぐ「米百俵プレイス（仮称）」への期待の声と魅力を紹介します。 岡中心市街地整備室 ☎39・2807